

静岡県教員育成指標(保育教諭)

ステージ		着任時	基礎期 (初任～5年目程度)	向上期 (～中堅研程度)	充実期	深化期
		教員としての歩み始める時期	教員としての基礎を確立する時期	教員として自立し、後輩教員の手本となる時期	中堅教員として園運営の中核を担う時期	自己の専門性の更なる向上と若手・中堅教員の指導の時期
資質		<p>〇 静岡市立こども園が目指す子どもの姿「自己肯定感もてる子」「夢中になって遊ぶ子」「楽しく生活する子」「いきいき表現する子」「進んでかかわる子」の実現に向けて、園児の主体的な活動としての遊びを十分に確保しながら、育みたい資質・能力(①知識・技能の基礎、②思考力・判断力・表現力等の基礎、③学びに向かう力、人間性等)が身に付く実践的指導力を磨く。</p> <p>〇 静岡市子ども・子育て支援プランの基本理念、「静岡市は子どもを大切にします」のもと、「子ども本位」の視点に立ち、子どもを安心して産み育てることができること、子育てに喜びや生きがいを感じられるようになるための「子ども・子育て支援」を実践する。</p>				
素養		「たくましく、しなやかな子どもたち」を育成するために、教育に燃える熱意、胆力、使命感、倫理観と教育的愛情をもち、人間性を磨いている。				
遊び指導力	子ども理解	子どもの多様性を理解し、一人一人とつながりを作ろうとしている。	子どもの発達の理解をする。子どもの実態と背景の把握をする。子どもを肯定的に見る。	子どもの活動の意味を理解する。子どもの発達する姿をとらえる。集団と個の関係をとらえる。	職員間の情報共有や家庭からの情報など多くの目で子どもの状況や変化を的確にとらえる。指導の経緯、多様な情報を総合的にとらえて子ども理解する。	子ども理解のための組織的な園内体制を作り、若手・中堅教員の子ども理解力向上を支援する。
	構想		「ねらい及び内容」を明確にして保育する。	適切で具体的な「ねらい及び内容」を設定する。遊びのプロセスを意識した保育をする。	入園から卒園まで、長期的視野に立った保育構想をする。小学校教育への接続を踏まえ、計画的・継続的に指導する。	深い教材研究に基づく専門性の高い保育構想をする。若手や中堅教員に専門性の高いアドバイスをを行う。
	環境構成	幼保連携型認定こども園教育・保育要領の内容と、それにあった指導法を理解している。	ねらいの実現にふさわしい環境を構成する。	遊びの展開に応じた環境の再構成をする。	他クラスや他学年の教育・保育展開を意識して、園全体の環境を構成する。	地域や園の実態を踏まえ、園全体の環境構成の維持・改善に努める。
	展開		一人ひとりの遊びの状況を把握し、ねらいに向かう援助を適切に行う。	遊びの展開に応じ、子どもの育ちを促す援助を意図的に行う。子どもの学びを価値づける。	子どもと遊びの見通しや振り返りを共有して保育する。	若手・中堅教員のモデルとなり、保育改善のアドバイス・指導や模範保育を行う。
	省察		自分の保育の振り返り、保育を見直す。	保育の見直しを通して改善点に気づき、保育改善に生かす。	教材や指導方法の研究と保育実践の相乗効果により、保育改善に努める。	園全体の成果と課題をとらえ、改善策を考え実践する。
	特別支援	インクルーシブ教育の理念を理解している。	特別な支援を要する子どもに対応する基本的な知識・技能を身に付ける。	特別な支援を要する子どもの障害の特性を理解し、一人ひとりの教育的ニーズに応じた合理的配慮をする。	特別な支援を要する子どもの障害の特性に応じて、計画的・組織的に対応する。	特別な支援を要する子どもの障害の特性に応じて、若手・中堅教員の模範となって対応し、個別の支援計画及び個別の指導計画の作成などをリードする。
生活運営力	在園年数・時間の違いへの配慮	幼保連携型認定こども園として特に配慮する事項について理解している。	在園時間の長い子どもに配慮し、活動と休息、緊張感と解放感等の調和を図る。子どもの様子等の引継ぎを丁寧に行う。	在園年数の違う子どもの発達や学びの連続性を考慮し、家庭や他の保育施設との連携や引継ぎを円滑にして教育・保育展開する。	土曜日や長期的な休業中、及び休業後の適切な教育・保育について考えるとともに、家庭・保護者と情報共有をする。	在園年数や在園時間の違う子どもへの配慮をしながら、園全体の生活時間・生活リズムをマネジメントする。
	健康・安全	保育室内外の安全管理について理解している	清潔で安全な環境を整え、適切に管理する。	疾病、感染症等の予防対策、アレルギー疾患についての知識・技能を持ち、適切に対応する。園内外及び非常時の安全管理を適切に行う。	与薬、救急蘇生法、乳幼児突然死症候群など、重大事項に適切に対応する。	園医、看護師、栄養士、全職員が相互に連携し、組織的かつ適切な対応を行うような体制を整える。
子育ての支援力	関係構築・連携	保護者の思いを受容的に聞く。	保護者と、子どもについての情報交換を通して良好な関係を築き、相談しやすい雰囲気を作る。	保護者の不安や悩みに寄り添い、受容的に受け止めながら適切に助言する。保護者に教育・保育の意図を伝える。	保護者や地域との連携を推進する。保護者に教育・保育のプロセスや子どもの育ち、学びの価値を伝える。	状況に応じて地域や関係機関との連携を密にしながら、組織として保護者や地域を支援する。近隣小学校や地域、保護者に対して、様々な機会や手段を通して情報発信に努める。
	課題対応		障害や発達上の課題、育児不安や不適切な養育、その他新たな教育課題についての基礎知識をもつ。	日常の子どもの観察や対話等をもとに、早期発見、先手支援を行う。	新たな教育課題に対して専門的な知識・技能を活用して、園体制の中核として組織的に対応する。	新たな教育課題に対して、広い視野や様々な立場から考え、実効性の高い取組を行うとともに、若手や中堅教員にアドバイス・指導を行う。
組織運営力	園務分掌	社会人としての自覚をもつ。	担当学年や分掌の仕事を着実に実行する。	担当学年や分掌についてPDCAサイクルに基づいて実践する。	各分掌のつながりを意識し、計画的・組織的に職務を遂行する。	園の活動を俯瞰的にとらえ、現状と教育資源の分析をもとにビジョンを明確にして職務を遂行する。
	協働	人とつながろうとする姿勢がある。	組織の一員として、与えられた役割について報告・連絡・相談を行い対応する。	自分の考えを伝えるとともに、相手の立場を理解しながら対応する。	担当学年や分掌の主任等として、同僚との合意形成を図り、計画的・組織的に職務を推進する。	若手・中堅教員の適材適所での活用及び指導をする。地域の人的・物的資源等を効果的に活用する。
	危機管理	危機管理の必要性を理解している。	園内の危機を認識し、予防と対策を適切に実施する。		園全体のリスクマネジメント(危機回避)とクライシスマネジメント(危機対応)を意識して取り組む。	リスクマネジメントとクライシスマネジメントに関する実施体制の主管と指導を行う。